

石川啄木の娘・京とバレンタインチョコレート

昨日、遺愛会に参加してきました。遺愛会とは、遺愛で先生をしていて定年退職された方の会です。毎年7月7日の七夕に行われるのですが、会場の都合で今年は7月9日に行いました。

私は60歳前なので特別参加ですが、とても楽しい一時でした。最高齢は84歳、正規のメンバーで一番若い方で62歳です。ほぼ同時代に遺愛で苦楽をともにし、というか在職中は大変なことの方が多かったかもしれませんが、遺愛時代のことを語れば、ああだったね、こうだったね、と共通の話題で花が咲きます。そして皆さん、遺愛で過ごせた日々感謝していました。

今回は、卒業生の各地域の同窓会同様に、卒業アルバムのバックナンバーから先生方の若い時代の写真をピックアップし、パワーポイントで上映しました。おおいに盛り上がりました。

その後、1人一言の近況報告がありました。皆さん、退職後も生き甲斐をもってガンバっていらっしゃるなという印象でした。若いときに習ったお琴を今も続けている先生、女性合唱団で活躍している先生、町内会長をし続けている先生、90歳過ぎのお父さんの介護をしている先生、80歳すぎて週1回の社交ダンスに楽しみを見いだしている先生、遺愛の歴史や遺愛に関わった人々を継続して調べている先生もいました。その先生が面白いエピソードをいくつか紹介して下さいました。ここでは2つ紹介します。

1つめは、北海道でバレンタインの日に最初にチョコレートを恋する男性にプレゼントしたのは、石川啄木の娘・京だったらしいということです。京は遺愛出身ですが、1923年に恋人の新聞記者だった須見正男という方にチョコレートをプレゼントし（同僚の新聞記者の証言が残っています。）3年後の4月に2人は結婚したそうです。

2つめは、日本で初めてのビューティコンテストが1908年（本館・ホワイトハウスが完成した年）に開かれたのですが、日本初のミス日本は、遺愛に在学していた生徒だったということです。1908年（明治41年）3月に米国ハルトトリビューン社



世界美人コンクール開催依頼を受けた時事新報社が日本全国の新聞社によびかけ募集し7000人の中から写真によって選出されたのが末広ヒロ子さんでした。彼女は当時お父さんの仕事の関係で入学した遺愛から学習院に転校していて16歳でした。世界コンクールでも6位になったそうです。

2012年7月10日

遺愛会の参加者です。